

行政評価シート（事務事業評価）			評価年度	4年度
事業名	ふるさと偉人資料館管理運営費	担当課	教育課	
事業内容(簡潔に)	郷土の偉人の業績について調査、研究、収集を行い、後世に継承する。 また、市民等との交流を通じて広く教育及び文化の発展に寄与し、郷土愛を育むことも目的とする。			

1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第7次総合計画での目的体系	基本方向	夢を持ち、明日を担う人材を育むまちづくり		
	政策	誰もが「生きる」喜びを感じるまちづくり		
	施策	文化・芸術の振興		
関連する個別計画等		根拠条例等	韮崎市ふるさと偉人資料館条例	

2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	郷土の偉人の偉業を顕彰し、後世に伝承していくとともに、市民の交流等を通して広く教育及び文化の発展に寄与することを目的とする。
事業の手段	市民交流センター・ニコリ1階にある、ふるさと偉人資料館の管理運営業務を委託することで、資料の適切な管理及び活用を行うとともに、企画展等を開催し事業の目的の達成をはかる。
事業の対象	対象者：市民及びふるさと偉人資料館に来館する方々

3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		元年度	2年度	3年度
A	事業費 (千円)	8,426	8,255	8,342
財源内訳	国・県支出金	0	0	0
	その他(使用料・借入金ほか)	0	0	0
	一般財源	8,426	8,255	8,342
B	担当職員数(職員E) (人)	0.08	0.05	0.04
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	537	328	263
D	総事業費(A+C) (千円)	8,963	8,583	8,605
主な事業費用の説明	企画展の開催及び資料館の管理への委託費 ※R01:水上達三 ※R02:穂坂直光 ※R03:細田さだの			

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した元年度(6,715千円)、2年度(6,575千円)、3年度(6,582千円)を使用しています。

4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			元年度	2年度	3年度
活動指標	1 開館日数(日)	年度毎の開館日数	268	236	259
	2 企画展回数(回)		1	1	1
	3 日常的管理部门を除く企画展運営費用(千円)	総事業費-事業費のうち主要人件費	2,026	2,866	3,116
妥当性	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない				
上記活動指標と妥当性の説明	1	令和2年3月以降は、新型コロナウイルス感染症による休館等の影響が出ていると考えられる。月曜、祝日の振替休館日、展示替え作業に伴う休館日、年末年始は休館。基本的に土日祝日は開館しており、利用者が訪れやすいよう図っている。			
	2	実施した企画展の回数。			
	3	企画展の開催により偉人資料館の設立目的を果たすと共に、それに伴う講演会等のイベントを開催することで、企画展への内容理解をはかる。企画展の回数及びイベントに対しては原則ボランティア対応でおこなっていることから、運営上ほぼ妥当である。*R元年度：学芸員試用期間			

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			元年度	2年度	3年度
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	来館者数(人)	6,606 (10,247)	2,200 (9,842)	1,895 (9,078)
	2	開館日1日あたり来館者数	24.6	9.3	7.3
	3				
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C 上がっていない			
上記指標の妥当性と 成果の内容説明	1	令和2年3月以降は、新型コロナウイルス感染症による来館控えの影響により来館者が減少しているものと推定される。			
	2	令和2年3月以降は、新型コロナウイルス感染症による来館控えの影響により来館者が減少しているものと推定される。			
	3				

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input checked="" type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 拡大(コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善(事務的な改善を実施する) <input type="checkbox"/> 全部改善(内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小(規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止(廃止の検討が必要)		
事務事業の改善案	改善の概要・方向性(いつまでに、どのような形で具体化するのか)		
	令和4年度の改善計画(今後の事業展開説明) ・収集した資料の収蔵方法や活用についての検討。 ・リピーター層とは異なる新たな来館者層への発信方法等の検討。		
改善の経過	・平成26年度から引き続き、教育委員会文化財担当で企画展等の運営について専門的な知見を持って委託者に対し指導を行っている。 ・平成29年度より委託者内にボランティアではない専任の学芸員を置き、調査研究および企画展内容の充実を図った。 ・令和02年度企画展から、小学生の来館者に配慮したパネルを設置する展示構成とした。また、併せて日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」の「33番土偶札所巡り」の一施設として位置づけをおこない、来客層の裾野の拡充をはかった。 ・学校の授業の一環として出前講座を年1~2回実施した。		
直近の評価結果	内部評価	令和2年度	<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止
	評価時の改善案	今後の企画展等の対象となる人物についての資料の収集・分析・収蔵を行うことのできる体制作りの検討。	
	外部評価	対象外	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止
	評価時の対応	対象外	
課長所見	・来館者数は新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年3月以降、開館していても1日あたりの来館者数は一桁台とコロナ禍前の20~30人台を大きく下回っている。 ・来年度開催予定の「小林一三生誕150周年・小野金六没後100年」記念事業を契機に、市内外に訴求する魅力ある企画展・関連講座の実施の再構築を行い、来館者数を増加に転じる取組みが必要である。		